

デジタルを前提とした市役所へ

【県内初】～全職員に「Google Workspace」、 「Chromebook」を導入～

担当：情報デジタル推進課 中尾（電話 0979-62-9874）



© Google / Gemini

中津市は、令和 3 年度をデジタル元年と位置付け、行政手続き等のオンライン化をはじめ、「家庭ごみ分別案内」や「健診案内」のチャットボット、「避難所入退所管理」や「救急資機材管理」のアプリケーションを職員自らが内製化する、「中津流 DX」を展開してきました。

今年度は、中津流 DX の更なる推進を目的として、全職員にインターネット接続が可能な PC「Chromebook」を配布するとともに、コラボレーションツール「GoogleWorkspace」を全面導入し、業務環境を刷新いたします。

デジタルを前提とした市役所へとアップデートすることで、生成 AI などを活用して定型業務の自動化・効率化を図るとともに、潜在的ニーズを汲み取った質の高い相談・訪問サービスの提供や、市民の声を分析し反映した政策立案などを進めていきます。

デジタルを前提とした市役所へ

～「中津流DX」のこれまでとこれから～

これまでの歩み

R3

デジタル元年

行政手続等のオンライン化 / DX Award 開催

R4~5

アプリ内製化 本格始動

ノーコードツールを活用したアプリ開発
中津市公式LINEの機能強化
DX人材育成プログラム 開始
窓口改革 着手

R6

デジタル変革PJ 着手

新たなデジタル環境の構築・実証実験
アプリ開発の横展開

「まずはやってみる」精神で、市民の利便性向上と人材育成・組織の意識改革を両輪で推進。

中津流DXの第二章、始動。

コラボレーションツール・生成AIをフル活用し、あらゆる分野でDXを加速させます。

Google Workspace /
Chromebook
全職員への導入

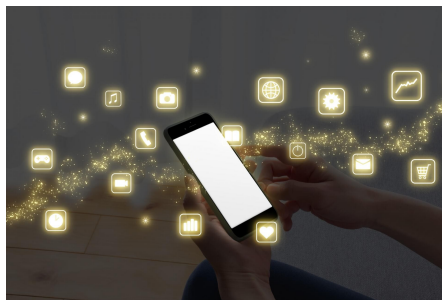
市民サービス向上に加えて、市役所内部の働き方を抜本的に改革し、DXの効果を最大化します。

デジタルを前提とした業務環境に刷新することで時間を創り出し、更なる市民サービス向上を図ります

訪問・相談DX



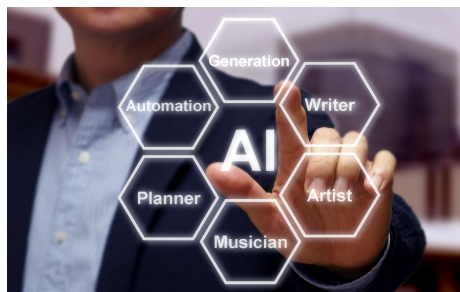
アプリケーションの内製化



災害対応・事業継続(BCP)



生成AIによる定型業務の効率化



リアルタイムにデータ共同編集



柔軟な働き方への対応

